

## 尼崎市における学びの多様化学校設置基本方針(素案)に対するパブリックコメント募集結果

○4人の方から、16件の意見をいただきました。

○寄せられたご意見の概要とそれに対する市の考え方は以下のとおりです。

No.	寄せられたご意見の概要	件数	市の考え方
学びの多様化学校設置基本方針全般について			
1	増えた不登校児童生徒のために学びの多様化学校の設置計画が策定されたように感じるが、不登校児童生徒を特別扱いをして隔離対応を行おうとしているのではないか。	1	<p>[その他]</p> <p>本市では、かねてより「教育支援室ほっとすてっぷ」、「サテライト教室」、「ハートフルフレンド」等のグラデーションのある不登校対策・支援を行ってきました。一方で、不登校者数の増加傾向が続く中、不登校の子どもの実態に合わせたさらなる多様な学びの場の確保が課題となっており、その一つとして学びの多様化学校を設置します。</p> <p>学びの多様化学校では、不登校の子どもの個々のニーズに応じた受け皿としての役割はもちろん、それ以上に、今後全国的に展開されるであろう「学びの多様化」を本市において推進していくための「フラッグシップ」としての役割をもつこととしています。不登校の子どものみを特別扱いするものではなく、学びの多様化学校での優れた実践をすべての学校に還元していきます。</p> <p>また、基本理念として、こどもセンターの視点に立ち、地域や社会、そして未来とのつながりの中、一人ひとりが最大限のウェルビーイングの向上を実現できる場所となることを目指しており、学びの多様化学校における教育活動は、子どもを隔離対応するものではなく、子どもを地域や社会、そして未来へとつなぐものとして考えています。</p>
2	設置により、どれくらいの不登校児童生徒に支援を提供できることになるのかを知りたい。中学生の不登校者数を記載してほしい。小中一貫ではなく中学校を設置する理由を知りたい。将来的な規模感を示してほしい。	1	<p>[意見を反映した(付加)]</p> <p>ご意見を踏まえ、小中学校の不登校児童生徒数と1,000人当たりの出現数について記載しました。学びの多様化学校の将来の規模感については、設備等の環境面を考慮し生徒数を40名程度としています。また、同校の設置が直ちに支援率の変動につながることは想定していませんが、同校における多様なニーズに対応した様々な実践を尼崎市全体に広げ、学びの多様化を推進することで多くの子どもへの支援が充実していくことを目指します。</p> <p>本市における不登校の子どもの数は、全国平均よりも高い出現率となっていますが、中学校における不登校出現率の高さについては喫緊の課題であり、義務教育での学びを将来につなげていくためにも、中学校段階における学びの多様化学校を設置することにしました。</p>
3	「尼崎市全体」とは既存学校を含み、誰もが安心できる学校づくり、風土づくりを目指すという理解でよいか。既存の教育支援室、サテライト教室を学びの多様化学校分教室型として体制を改める可能性はあるのか。東京都版学びの多様化学校を参考に、校内分教室型を検討・採用してほしい。	1	<p>[その他]</p> <p>学びの多様化学校においては、そこで実践される取組や成果を市内のすべての学校の教育活動に活かすためのフラッグシップ校として位置づけています。</p> <p>既存の不登校対策・支援等は、不登校の子ども一人ひとりに応じたグラデーションのある学びの場として機能しているものと認識しています。既存の場を学びの多様化学校の分教室に位置付ける予定はありませんが、学びの多様化学校における様々な実践の成果は取り入れていきたいと考えています。</p> <p>また、学校内の分教室型の学びの多様化学校の設置は検討していませんが、小中学校に「校内サポートルーム・エリア」の設置を推進するためのモデル事業を実施し、不登校傾向の子どもや、集団での学びに「しんどさ」を抱える子どもへの支援の充実を図っていきます。</p> <p>なお、他の自治体における不登校対策・支援につきましては、適宜情報収集等を行うとともに、参考とさせていただきます。</p>

4	「学校へ行きたいと望む子もいる」と記載があるが、学校へ行きたい理由が何かを記載してほしい。不登校児童生徒の声を拾い、学校のイメージを具体化してほしい。「たまたま一般的な学校が合わなかっただけで違う環境では通える活躍できる子」という表現は子どもが悪いという印象を受けるので変更してほしい。	1	[意見を反映した(修正)] 子どもが学校へ行きたいと思う理由については、様々な理由が考えられますが、本校では多様な学びと心理的安全性が担保されていることが土台であると考えています。子ども一人ひとりに寄り添い、状況に合わせた支援を届けることを大切にしていきたいと考えています。不登校の子どもたちの声を聴くことについては、その方法も含めて検討していく予定です。 本文中の「たまたま一般的な学校が合わなかっただけで…」という表現について、子どもが悪いことを意味する意図はありませんが、よりわかりやすい表現に変更しました。
不登校施策全般について			
5	不登校施策について、従来から様々な施策が講じられているが、不登校児童生徒が増加傾向にあるのは現在の教育環境に要因があるのではないか。原因について詳細に調べる必要があるのではないか。	1	[その他] 不登校の要因についてのアセスメントを行うことは非常に重要だと考えています。一方で、不登校の要因は多種多様で複雑に関連しており、さらに時とともに変化することもあるため、その要因の特定に注力することは、不登校の子どもへの心理的負担を強める可能性があります。そのような状況に対応するため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、福祉等の関係機関と十分に連携しながら、不登校の子どもについて適切なアセスメントが行えるような仕組みを構築していく予定です。
6	1学級20人クラスならゆとりを持って寄り添えると思う。市独自の少人数学級を実現してほしい。	1	[その他] 教職員数については、配置基準に従った定数が配置されていますが、状況に応じて少人数学級を編成したり、個別支援を実施したりすることを考えています。また、教員以外の職種の職員も配置することにより、多様な職員で子ども一人ひとりに寄り添った支援ができるよう検討を進めていきます。
定員・学級編成・通学・服装について			
7	お試し通学など、子どもに安全安心が担保でき、一人ひとりの学びの場となることを期待している。	1	[すでに盛り込み済み] 子どもが安全安心に通学を行える環境整備は大切であると考えています。今後、体験入学等についても、十分に検討していく予定です。
8	定員はあるが、希望に合わせて受け入れてほしい。自転車、バス、電車の通学は可能か。通学方法や登校時間を検討するとともに、通学にかかる費用は無料か低額で、服装は子どもと決めてほしい。	2	[意見を参考とする] ご意見のような希望に合わせた受け入れも一つの方法と考えられる一方、学校規模や教職員数といった様々な条件に制限があるため、定員を設けています。 通学に係る公共交通機関の利用の場合の経費については、通学定期券の活用により一定の負担軽減ができるものと考えています。また、生徒の服装については、学校づくりの5つの視点の中にある「こどもの意思決定を尊重する」ことを大切にしながら今後検討していきます。
子どもの人権について			
9	きのくに子どもの村学園への見学・研修を行い、子どもの人権を一番に考える学校経営をしてほしい。	1	[意見を参考とする] 学校づくりの5つの視点の中に、「こどもの意思決定を尊重する」ことも掲げており、様々な場面で子ども自身が意思決定を行うことを大切にしていきたいと考えています。先進校視察についても、適宜実施を検討していきます。
10	児童生徒が話し合う機会を設けるなど、こどもの意見表明権を保障し、校則を作成してほしい。	1	[すでに盛り込み済み] 校則については、学校づくりの5つの視点の中にある「こどもの意思決定を尊重する」ことを大切にしながら今後検討していきます。

職員配置・教育課程について		
11	学びの多様化学校の職員には、正規採用の専門家が必要だ。多様な職種の職員とはどんな職種を想定しているのか。	2 [意見を参考とする] 学びの多様化学校における学校づくりの5つの視点の中に、「多様な職種の職員による支援を行う」ことを掲げており、子どもの多様な教育的ニーズに対応していくためには、教員だけでなく、他の職種における支援も必要であると考えています。多様な職種の職員については、今後検討を進めていきますが、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをはじめ、子どもの教育ニーズに対応できる支援員等を想定しています。
12	学校での集団的同一教育をやめ、一人ひとりに対応した教育指導を行い、新しい教育者の育成に力を入れる方向に舵をとっていくのがベターではないか。	1 [その他] 学びの多様化学校は、尼崎市全体の多様化を推進するフラッグシップ校を目指しており、本校での多様なニーズに対応した様々な実践は、すべての学校に対して還元されるものです。市内のすべての学校においても、子ども一人ひとりに寄り添った支援の充実につながるものと考えています。また、教職員についても、学びの多様化学校を核とした研修の実施や教育以外の職種との交流や連携を行っていきたくと考えています。
13	受験学力より生きた学力・生きる力を身につける学校になってほしい。	1 [すでに盛り込み済み] 学びの多様化学校における教育課程は、心理的安全性が担保された環境を基本とするとともに、自主性・創造性・社会性を3つの柱として編成する予定です。教育課程は学校の核となるものですので、今後十分検討を進めていきます。
14	尼崎市内の中学校は不登校生徒が部活動のみに参加することを認めているのか。学びの保証とともに体験格差についても対策してほしい。居住区域の中学校の部活動に参加することはできるのか。不登校児童生徒が学校内の図書室を気軽に利用できる環境は整っているのか。市立図書館の利用を勧められているのか。	1 [意見を参考とする] 不登校の子どもの部活動参加については、各学校においてそれぞれの子どもの状況に応じて対応をしていますが、学びの多様化学校の部活動等の在り方については、子どもの意見等を参考に今後検討していきます。また、図書室や図書館の利用についても、不登校の子どもや集団の中の学びに「しんどさ」を抱える子どもへの支援としては有効な手立てであると考えており、今後も検討を進めていきます。